

愛南町次世代型水産業振興ネットワークシステム



石垣の里「外泊集落」(未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選)

～愛は南から～ 愛媛県 愛南町

1 愛南町の概要

(1) 愛南町の概要

愛媛最南端の町(愛媛の南の町)

平成16年10月(郡内5か町村が合併して誕生)

人口 25,271人

(2) 産業特性

豊かな自然を利用した第1次産業の町

水産業は年間生産額250億円の基幹産業

特に、マダイやブリ類などの海面養殖が盛んな地域

(3) 観光

足摺宇和海国立公園の指定(1955年)

珊瑚礁や熱帯魚を鑑賞できる観光船

(ユメカイナ、ガイアナ号)

マリンレジャー観光

(スキューバダイビング、シーカヤック、
シュノーケリング、海水浴、磯釣り、キャンプ)

南予レクリエーション都市

(1972年地域型レクリエーション都市の指定)

サンパール、ジャンボプール、
宇和海展望タワー、紫電改保存館、
松軒山公園

四国お遍路文化、四国の道と観自在寺



2 愛媛の水産業（漁業別生産額：百万円）

ランキング上位の愛媛の代表的水産物

マダイ	1位	全国シェア 10.5%	(宇和海 1.5%)
まあじ	3位	全国シェア 7.1%	(宇和海 6.2%)
養殖マダイ	1位	全国シェア 50.3%	(宇和海 48.9%)
養殖真珠	1位	全国シェア 36.8%	(宇和海 36.8%)
養殖母貝	1位	全国シェア 77.3%	(宇和海 77.3%)
養殖ブリ	2位	全国シェア 15.3%	(宇和海 15.3%)
養殖ヒラメ	2位	全国シェア 17.1%	(宇和海 10.9%)

生産量・生産額20年連続1位

長崎	生産額	全国シェア	順位
海面漁業	76,789	6.8%	2位
海面養殖	26,547	5.9%	5位
合計	103,336	6.6%	2位

北海道	生産額	全国シェア	順位
海面漁業	269,837	24.0%	1位
海面養殖	41,583	9.3%	3位
合計	311,420	20.0%	1位

愛媛	生産額	全国シェア	順位
海面漁業	33,282	3.0%	9位
海面養殖	61,632	13.7%	1位
合計	94,914	6.0%	3位

3 愛南町の水産業

(1) 養殖生産額の比較

区分	単位	全国 (A)	愛南町 (B)	全国 比率 (B/A)
養殖業生産額	億円	4,177	157	3.6%
うち ぶり類		1,160	54	4.7%
<u>マダイ</u>		<u>496</u>	<u>86</u>	<u>17.3%</u>
真珠		133	2	1.5%
<u>真珠母貝</u>		<u>12</u>	<u>4</u>	<u>33.3%</u>

※平成20年農林水産統計年報資料



(2) 全国ランキング上位の水産物

① 愛南の鯛は日本一(たい類陸揚量)



全国94,047T	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港名	深浦 (愛媛)	国永 (愛媛)	福浦 (愛媛)	串本 (和歌山)	三崎 (神奈川)	長崎 (長崎)	魚泊 (愛媛)	大道 (熊本)	宮田 (熊本)	船越 (愛媛)
陸揚量(T)	3,886	3,388	2,976	2,893	2,763	2,698	2,333	2,300	2,119	1,989
全国比率(%)	4.1%	3.6%	3.2%	3.1%	2.9%	2.9%	2.5%	2.4%	2.3%	2.1%

※深浦、福浦、船越の陸揚量は全国の9.4%を占める。

② 愛南の鰹は四国一(かつお陸揚量)



全国349,398T	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港名	焼津 (静岡)	枕崎 (鹿児島)	山川 (鹿児島)	石巻 (宮城)	気仙沼 (宮城)	勝浦 (千葉)	長崎 (長崎)	銚子 (千葉)	大堂津 (宮崎)	深浦 (愛媛)
陸揚量(T)	135,352	81,284	40,564	25,442	20,721	8,546	5,483	4,282	3,284	2,789
全国比率(%)	38.7%	23.3%	11.6%	7.3%	5.9%	2.4%	1.6%	1.2%	0.9%	0.8%

③ 愛媛の真珠母貝は日本一(真珠母貝陸揚量)



全国 1,094T	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港名	鼠鳴 (愛媛)	須下 (愛媛)	田胤 (愛媛)	結出 (愛媛)	家串 (愛媛)	田ノ浜 (愛媛)	網代 (愛媛)	魚神山 (愛媛)	油袋 (愛媛)	柿の浦 (愛媛)
陸揚量(T)	153	74	71	62	61	58	58	45	45	44
全国比率(%)	14.0%	6.7%	6.5%	5.7%	5.6%	5.3%	5.3%	4.1%	4.1%	4.0%

※家串、網代、魚神山、油袋の陸揚量は全国の19.1%を占める。

◆上記は平成16年魚種別漁港ランキング抜粋(水産庁漁港漁場整備部)

4 愛南町の地域特性

(1) 黒潮の恩恵を受ける良好な漁場



宇和海沿岸では、急潮及び底入り潮といった自然による大きな海水交換が働いており、宇和海を巨大な養殖漁場として成立させている。(愛媛大学沿岸環境科学研究センター武岡氏)

※急潮—豊後水道南部海域を起源とする暖水塊が四国沿岸を北上する密度流

底入り潮—湾外から深層の水温が低く栄養塩類の豊富な水が湾内に浸入してくる現象

(2) 透明度が高く、きれいな漁場

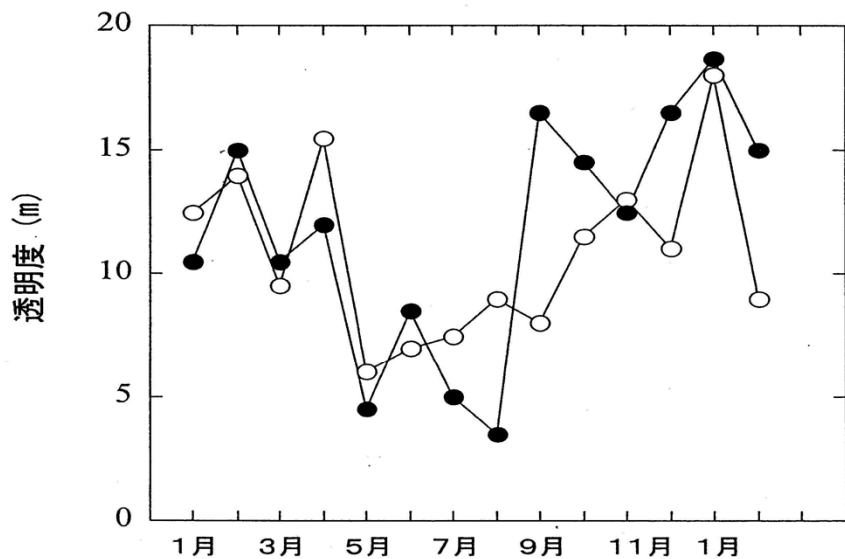


図5: 2006年度の内海湾(白丸)および福浦湾(黒丸)における透明度の季節変化

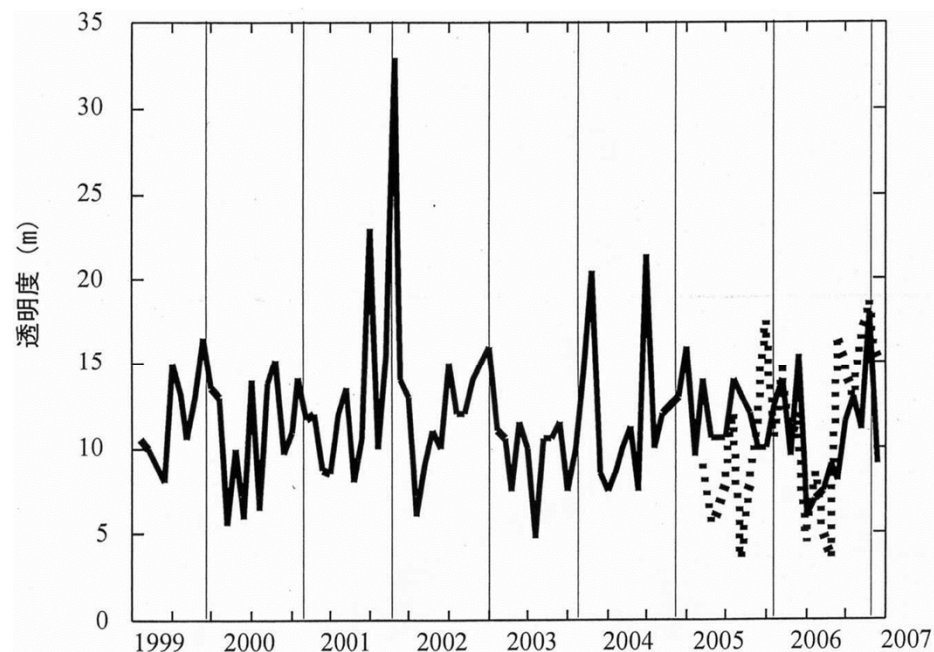


図8: 内海湾(実線)および福浦湾(破線)における年平均透明度の経年変化

2006年度の福浦湾、内海湾における透明度の季節変化

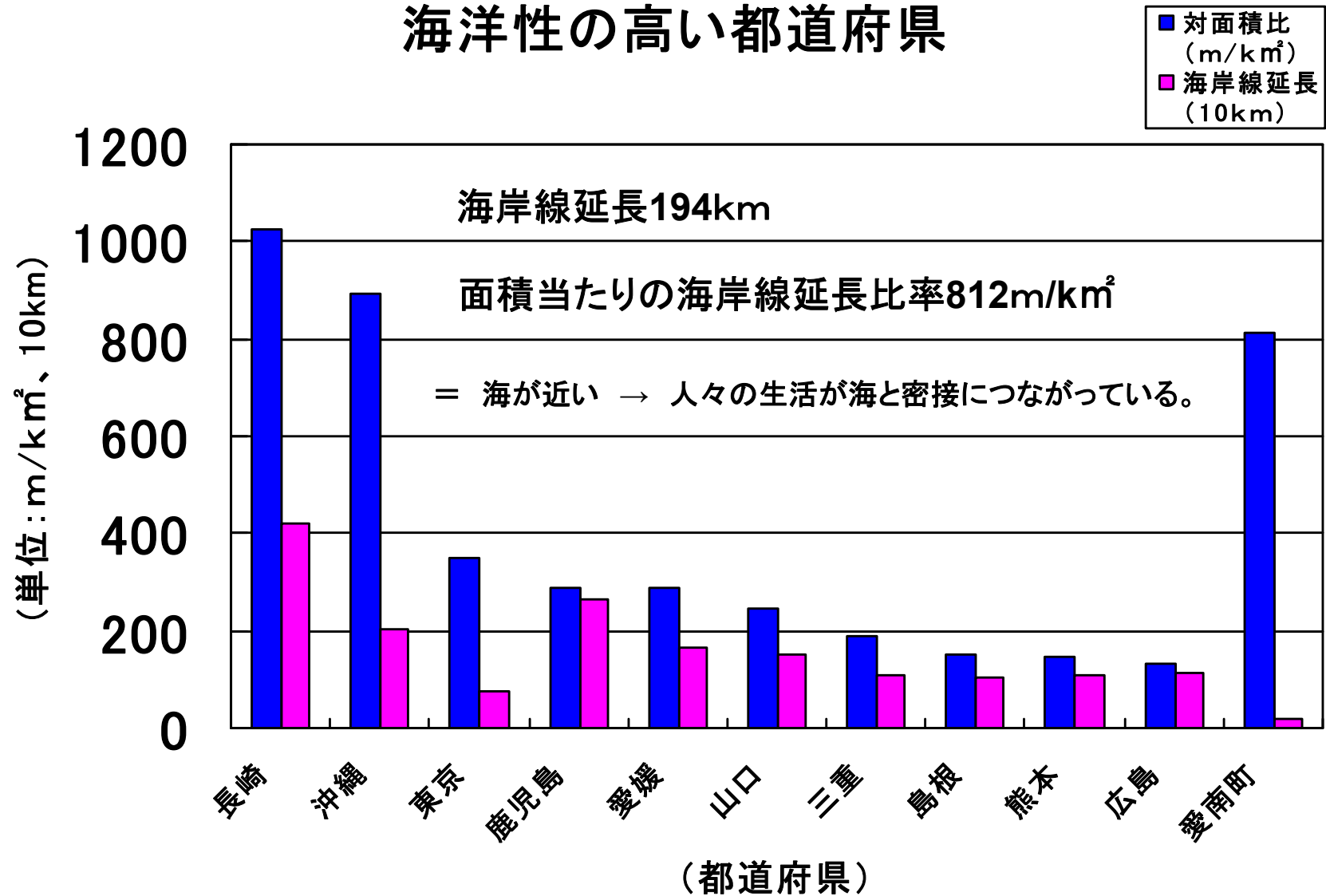
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均透明度
福浦湾	10.5m	15.0m	10.5m	12.0m	4.5m	8.5m	5.0m	3.5m	16.5m	14.5m	12.5m	16.5m	10.8m
内海湾	12.5m	14.0m	9.5m	15.5m	6.0m	7.0m	7.5m	9.0m	8.0m	11.5m	13.0m	11.0m	10.4m

※年間平均透明度は10mを超えるきれいな海域である。

◆平成18年度愛南町沿岸海域環境調査抜粋

(3) 高い海洋性

海洋性の高い都道府県



※愛南町は海岸線が複雑に入り組んでおり、その延長は194kmである。また、面積当たりの海岸線延長は812m/km²で、全国第2位の沖縄県に匹敵する海洋性の高さを持っている。

(4) 豊富な魚種と多様な漁業形態

※愛南町は日本の漁業の縮図

〔豊富な魚種〕
えひめ愛南お魚図鑑
849種類収録
日本全体の1/4に相当

多様な漁業形態(漁船漁業)

小型底引き網	275t
船びき網	26t
遠洋かつお・まぐろまき網	5059t
近海かつお・まぐろまき網	8,474t
大中型1そうまき網	15,942t
中・小まき網	13,803t
その他刺し網	43t
大型定置網	18t
小型定置網	62t
その他の網漁業	160t
その他のはえ縄	25t
沿岸かつお一本釣り	677t
沿岸いか釣	19t
ひき縄釣	22t
その他の釣	261t
採貝・採藻	71t
その他の漁業	76t
合計	45,010t

※2007年漁業種別漁獲量

※豊富な養殖種(魚類、貝類、海藻類)

※愛南町ではマダイ、真珠母貝、ハマチ、カンパチ、ヒラメ、スズキ、シマアジ、マハタ、クエ、イシダイ、クロマガエロ、マガキ、イワガキ、ヒオウギ貝、アワビ、真珠、トサカノリ、ヒジキなど多種類を養殖をしている。

(5) 優れた特産品(水産物)

①「愛」あるブランド産品(えひめ愛フード推進機構)

安全・安心(人と環境への愛)、品質(産物への愛)、及び産地・特産(ふるさとへの愛)の三つの『愛』を持つ優れた愛媛県産農林水産物及び加工食品で、えひめ愛フード推進機構が「愛」あるブランド産品として認定したものの。



②地域産業資源 (中小企業による地域資源を活用した事業活動の促進に関する法律)

- ①県の各種構想、計画等で位置づけられているもの
- ②生産量が全国上位であるもの
- ③地域ブランド等の位置づけがあるもの
- ④地域産業資源を活用した様々な取組の動きがみられるもの

【愛南町の地域産業資源(水産物)】

マダイ、ブリ、アジ、サバ、カツオ、ヒラメ、シラス、フグ、タチウオ、イワシ、キビナゴ、クロマグロ、マハタ、クエ、イシガキダイ、エビ、真珠、アコヤ貝、ヒオウギ貝、ホンダワラ、トサカノリ、ヒジキ

5-1 地域の優れた取組 ①

(1) 南予水産研究センター設置事業

市町村の活性化新規施策100事例(平成21年度地域政策の動向)

(財)地域活性化センター

- ・文理融合、地域密着型の研究開発と成果の普及(地域展開)
- ・産学官民連携による第1次産業の振興を目的とした人材育成
(人材を誘致し関連企業の集積を図る。「企業誘致」から「人財誘致へ」)

※平成20年4月1日 愛媛大学と連携し、南予水産研究センターを設置

町村合併に伴い支所となった旧西海町役場の業務で使用しない部分(余裕スペース)を有効活用し研究センターに改修！(合併周辺地域の活性化優良事例)

町長室→センター長室



議場→実験室



町長車庫→屋外飼育棟



【学生・教員・研究スタッフ 22人（23.3月現在）】

教員4人、博士研究員3人、大学院生6人、4回生1人、事務員3人、研究助手5人

【研究成果】

養殖技術の効率化に関する応用研究

給餌コントロールによるブリ成熟抑制法に関する研究

魚類のストレス・魚病の研究

魚粉代替餌料、耐病性、成長効率の良い餌の開発（イエバエ、好熱細菌、オニヒトデ）

アコヤガイを使った南洋系真珠の開発（黒蝶、マベ）

ヒジキの養殖技術と人工種苗の開発

海洋環境モニタリング

底性動物・微生物を利用した環境修復技術の開発

赤潮早期検出通報システムの開発

クロマグロの人工授精技術の開発

カタクテイワシの養殖技術の開発

ぎょしょく教育に関する研究

水産物流通・販売促進に関する研究

生産流通情報システムに関する研究

養殖産地における競争優位創出に関する研究



H21・22年度・南水研常駐メンバー



愛南の変遷 南宇和支局 樋口 和至

取材
最前線

愛南町唯一の報道機関である支局に赴任してもつぎ4年。この4年間で町の様子が随分変わったように思う。特に2008年4月、町役場西海支所に開設した愛媛大南予水産研究センター（南水研）は、地域全体

促進や耐病性に効果のある餌を開発するなど「目からうろこ」の研究で数々の成果を挙げている。

一方、3月には町内の小中学校4校が閉校するなど人口減少に歯止めがかからない。高齢化で秋祭りのみこしさえも運営が厳しい中、南水研の学生らが応援に駆け付け継続できた地域もある。「本当に助かった」と胸をなで下ろす住民の笑顔が忘れられない。

の「希望の光」になりつつあると感じている。南水研では教員や大学院生、研究員、留学生など20人以上が研究に携わる。アカヤ貝で黒蝶（くろちようこ）真珠やマベ真珠を養殖生産する技術開発、ハエのサナギ入りの餌で養殖魚の成長

地域活性化には「よそ者、若者、ばか者」が不可欠といわれる。産官学民連携を実践している南水研はその好例と言えるだろう。記者という「よそ者」の一人として、これからも地域の変遷を伝えていきたい。

5-2 町の優れた取組 ②

(1)「ぎょショック」愛なんプラン：愛南型食育を基盤とした 地域づくり事業

市町村の活性化新規施策100事例(平成22年度地域政策の動向)

(財)地域活性化センター

○事業の概要

地域住民の総意と協働で、地域に根ざした愛南型食育(ぎょしょく教育)に関する推進計画の策定とその実践を図り、地産地消やツーリズム等をキーワードにした新たなビジネスモデルの創出や地域づくりの中核を担う人材を育成することによって、町の活性化を図る。

(2)ぎょしょくとは

- ①魚食(漢字)→魚食普及を意味する。
- ②ぎょしょく(ひらがな)→魚の生産から消費、さらに生活文化まで幅広い内容を含む。

(3)ぎょしょく教育とは

五感による体験学習で、ただ単に魚の知識に学んで魚を調理し試食するだけでなく、魚にまつわる諸事象を細かく、系統的に学習し理解する「地域理解教育」。

(4) 「ぎょしょく教育」のコンセプト (7つのぎょしょく)

- ①【魚触】 魚に直接、触れて捌く学習。調理実習。
↓
②【魚色】 魚の種類や栄養など魚自体に関する学習。
↓
③【魚職】 魚の生産や流通に関する学習。魚の漁獲や販売の体験。
(④との関連で「とる漁業」の学習)
↓
④【魚殖】 養殖魚の生産や流通に関する学習。
(③との関連で「育てる漁業」の学習)
↓
⑤【魚飾】 魚の伝統文化に関する学習。
(郷土料理や地域の食習慣などの学習)
↓
⑥【魚植】 魚をめぐる環境に関する学習。
↓
⑦【魚食】 魚の味を知る学習。試食。
↓
⑦+1【魚書句】 魚の良さや旬(季語)を俳句で伝える学習。

○「ぎょしょく教育プログラム」

①「魚触」→②【魚色】→③【魚職】→④【魚殖】→⑤【魚飾】→⑥【魚植】という一連の学習プロセスを経て⑦【魚食】へ到達できるように配慮した教育プログラム。

(5) ぎょしょく教育の授業内容に関する評価

【調理実習】

漁協女性部など地域諸団体を講師とする旬の魚を用いた調理指導。

【社会座学】

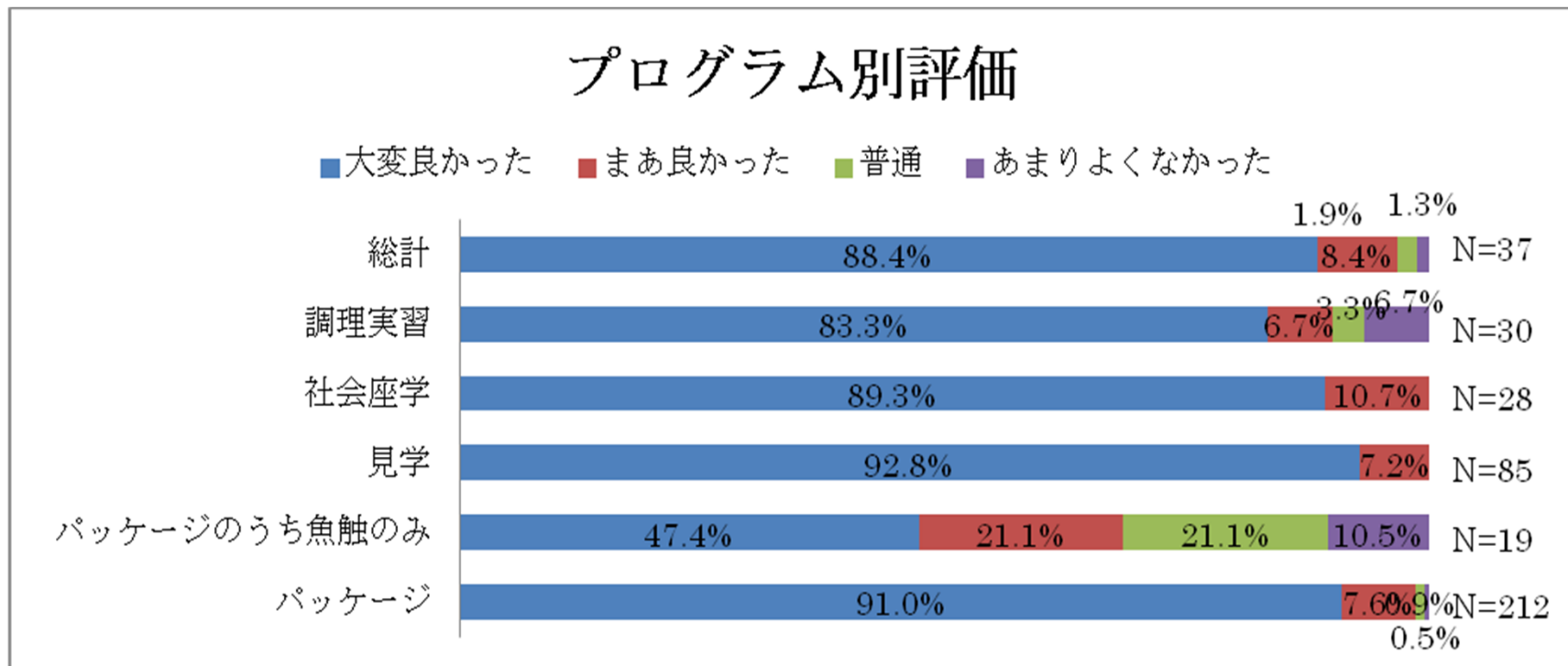
小学校で養殖業者を講師に養殖マダイと天然マダイに触れて違いを学ぶ。

【見学】

市場の水揚げや競りの模様、マダイ養殖場や沖合のブリ、マグロの養殖場の見学。

【ぎょしょくパッケージ】

魚触（魚に触る）、魚色（魚の生態や特徴、調理法、食べ方を学習する）、魚職（カツオの一本釣りの模擬体験、カツオ解体ショーや、養殖資機材の紹介）



魚に関する生産から加工、流通、消費・文化までを体系的、かつ、総合的に学習する【ぎょしょくパッケージ】の方が単体の学習よりも評価が高い。

(6)「ぎょしょく教育発祥の地・愛南町」の実践概要

【2005年10月】

全国に先駆けた「ぎょしょく教育」プログラムの試行

【2006年4月】

愛南町魚食普及推進協議会を愛南町ぎょしょく普及推進協議会と改称

(魚食ではなく、ぎょしょくを重視し、メンバー拡充で実践を深化させる)

【6月】

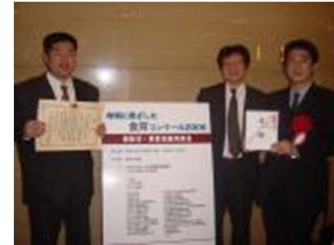
『水産白書 平成18年版』で「ぎょしょく教育」の取り組みを紹介

(魚離れ是正、魚食普及に向けた本格的な優良事例として掲載される)

【2007年1月】

地域に根ざした食育コンクール2006優秀賞の受賞

(地域の産学官民連携、斬新なコンセプトが評価され、愛南町ぎょしょく普及推進協議会として受賞する)



【2月】

『ぎょしょく教育実践マニュアル』の刊行

(愛媛大学で、「ぎょしょく教育」の周知・普及に向けたマニュアルとして開発)



【2007年6月】

『水産白書 平成19年版』でカードゲーム「ぎょショック」を紹介
(愛媛大学で、子どもたちへの「ぎょしょく」を普及するためのツール
として開発)



【2008年5月】

『ぎょしょく教育 ー愛媛県愛南町発 水産版食育の実践と提言ー』の刊行
(愛媛大学で、地域協働による「ぎょしょく教育」の実践内容と展望を
取りまとめる)



【11月】

愛媛大学「ぎょしょく教育」研究推進プロジェクトチームが大日本水産会の魚食
普及功績者として表彰
(大学と地域の連携・協働による魚食普及に対する表彰)



【2010年3月】

『愛なん食育プラン』の策定
(食育推進計画で、「ぎょしょく教育」を中心的な取り組みとして位置付ける)

【2010年3月】

ローカルヒーロー・ぎょしょく普及戦隊「愛南ぎょレンジャー」のキャラクター完成
(町特産の魚介類5種を町内の小学生が考案し、南宇和高校生がイラスト化)



【5月】

「義務ぎょしょく」の開始

(町内の幼稚園・保育所、小中学校の全校園で「ぎょしょく教育」を実施する)

【8月】

東京都ぎょしょく普及交流事業(都庁水産課)などとの連携に着手

(東京都中野区と小平市、神奈川県鎌倉市の小学校と都市漁村交流を開始する)

【11月】

日本初の中学生、高校生、大学生のシーフードジュニアマイスター

(お魚のソムリエ)4名が誕生 ※平成22年度の町内有資格者20人

【2011年3月】

日本初e-Learningを使用した小学5年生向け「ぎょしょくジュニアマイスター」の
受講環境が完成

『愛南ぎょしょく教育プラン』の策定

(愛南町における「ぎょしょく教育」のあり方とその方策を提言する)

※ぎょしょく教育の実績(22年度) 52箇所 2,635人



(7) 『ぎょしょく教育』の方向性

『ぎょしょく教育』から『ぎょしょく』への展開
(教育分野に留まらず包括的な地域振興として拡充)

ICTの利活用は不可欠



地域振興ビジョン
愛南ぎょしょく教育プラン
〈愛南ぎょしょくタウン構想〉

教育分野

統合分野

産業分野

- ①「生涯ぎょしょく教育」の実践
- ②「ぎょしょく教育」のコンセプトと実践活動に関する拡充
- ③「ぎょしょく教育」に関する新たな教材・ツール・マニュアルなどの開発
- ④「ぎょしょく教育」に関する体制・内容の強化と人材の育成
- ⑤「ぎょしょく教育」を念頭に置いた水産物の地産地消の推進
- ⑥「ぎょしょく教育」に関するイベント開催と情報発信
- ⑦「ぎょしょく教育」を通じた地域間の交流と連携
- ⑧「ぎょしょく教育」をもとにした地域ブランドの確立
- ⑨「ぎょしょく教育」を基本とする新たな水産加工品の提案と開発
- ⑩「愛南ぎょしょくツーリズム」の構築

産官学民の横断的、かつ綿密な交流～連携～協働の推進
地域の総意・総力による『ぎょしょく』の実践

■ 『ICTぎょしょく』の具体的な取り組み

(愛南ぎょしょく教育プラン抜粋：産業振興、交流促進、人材育成、雇用創出等)

① 「ぎょしょく教育」推進母体となるNPOの設立

NPO「愛南ぎょしょくリンク（仮称）」を設立し、雇用機会の創出を図る。

② 「ぎょしょく普及指導員」の認定と人材バンクの設立

「ぎょしょく教育」の指導協力者を「ぎょしょく普及指導員」として認定し、人材バンクに登録する。

③ 「ぎょしょく教育」実践を踏まえた食のビジネス化

「ぎょしょく教育指導員」の活動を有償ボランティア化し、経済的なインセンティブを設けて、食のビジネス化に向けた試みを進め、所得機会の創出をねらう。

④ 「愛南ぎょしょくマイスター」制度の確立

「ぎょしょく教育」の内容に関する知識・スキルのアップを図るために、専門的なプログラムを構築する。有料検定を実施し合格者を「愛南ぎょしょくマイスター」として認定する。

⑤ 「愛南ぎょしょくキッズマイスター」制度の確立

小学校高学年を対象にした「愛南ぎょしょくキッズマイスター」制度を確立し、その認定を行う。小学校5年生の社会科の授業内容を基本に国語や理科なども含めて教材開発を行う。

⑥ E-ラーニングシステムを導入した「ぎょしょく教育」システムの構築

入門的な内容とする教材を開発し、E-ラーニングシステムを導入する。町内外の幅広い層が受講しやすく、多様な「ぎょしょく教育」愛好者を発掘し、本町のファン・サポーターを確保する。また、本町との交流による児童・生徒の事前学習用教材としても活用する。

⑦ 多様なメディアを活用した「ぎょしょく教育」の情報発信

「ぎょしょく教育」の幅広い周知、地産地消の促進を目的に、本町の広報誌やHPなどへ恒常的に情報を提供し、町内外に広く情報を発信する。たとえば、「ぎょしょく教育」に関する様々な実践活動、魚料理レシピ、地場産水産物を利用したお手軽メニュー「愛南ぎょレンジャー」による4コマ漫画などを適宜、小学生に理解できる表現で丁寧に掲載する。また、「愛南町次世代水産業普及ネットワークシステム」と連動した双方向の情報交換を行う。

⑧ 大都市をはじめとする県外地域との産消交流

これまでの東京都や神奈川県との連携をさらに強化し、町内で醸造されてきた「ぎょしょく教育」のスキルや生産現場の声を地場産水産物の付加価値として展開する。大消費地でのICTを活用した「ぎょしょく教育」を進めることで、愛南町ファンの創出を進め、学校給食等での地場産水産物の販売促進と、グリーンツーリズムなど都市との交流事業へとつなげる。そのほかに関西圏や中京圏、九州圏との産消交流も暫時、交流を始める。

⑨ 既存のツーリズムとの連携・差異化

本町にある既存のグリーンツーリズムとの連携を模索する一方、それとの差異化を図るために、水産分野オリジナルの体験型「愛南ぎょしょくツーリズム」を開発する。その際には、これまでの町内の子供、保護者に実施してきた「ぎょしょく教育」プログラムを来訪者向けにバージョンアップさせる。

⑩ 「ぎょショック・バスツアー」の催行

これまでに実績のある、県内の親子を対象にした体験型バスツアー「ぎょショック・バスツアー」を拡充する。体験メニューとしては、漁場見学や調理実習、試食、町内の子供たちとの産消交流など、親子で楽しめる内容とする宿泊滞在型ツアーとする。

⑪ 集団宿泊研修や修学旅行の誘致

「ぎょショック・バスツアー」の催行実績を踏まえた上で、旅行業者とタイアップして、水産業の学習を行う小学5年生の集団宿泊研修や修学旅行を誘致する。産消交流型ツアーとして、まとまった人数の宿泊を見込めるパッケージツアーを誘致する。

⑫ ツアー受け入れ体制の拡充

本町では、農家漁家民宿を中心としたグリーンツーリズムに着手しており、それをバージョンアップさせて、リピーター確保を図る。そのために、団体宿泊研修や修学旅行生、ツアー客を受け入れるための知識やスキルを習得するためのセミナーや再組織化を展開する。

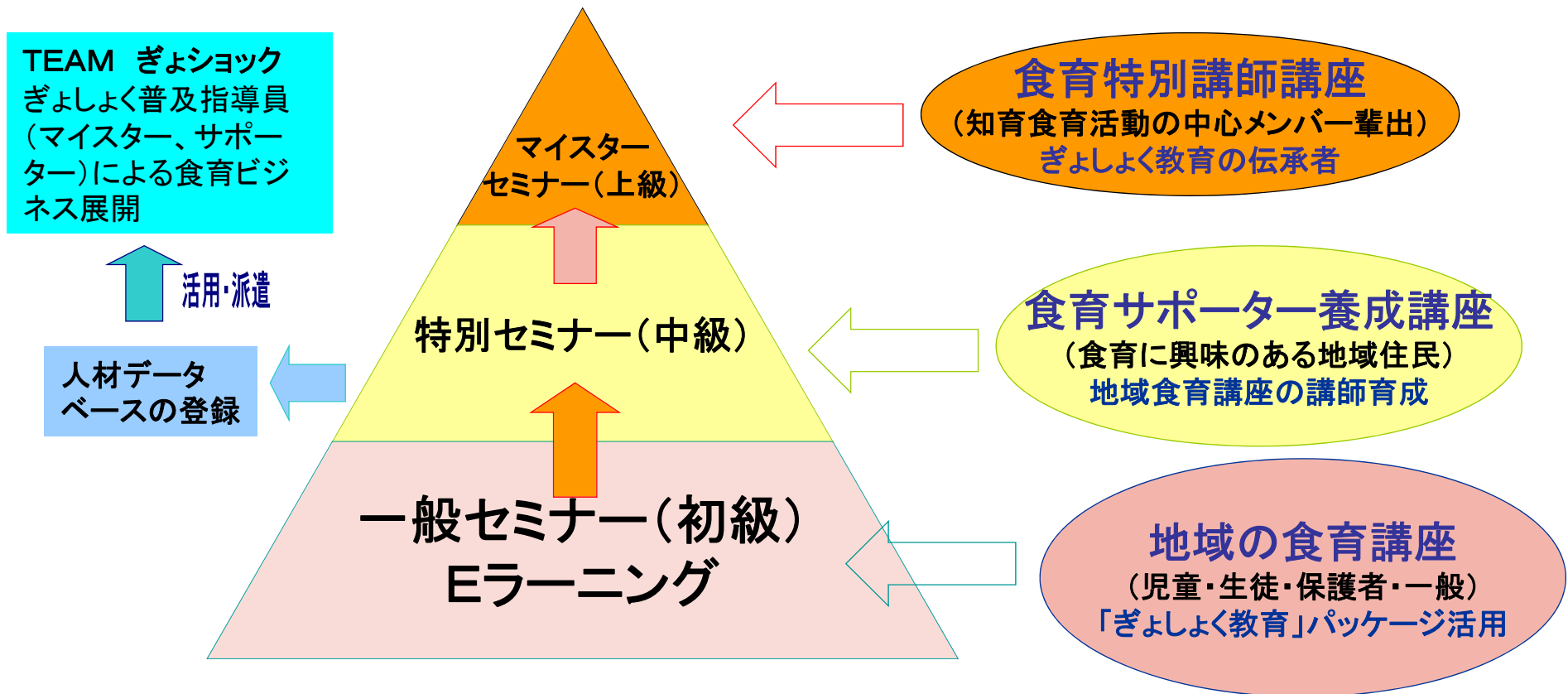
(8) 人材育成(BRING UP)(愛南町水産・食料基地構想抜粋)

「ぎょしょく教育」を活用した人材育成

“ぎょしょく教育”→町と愛大が全国に先駆け推進

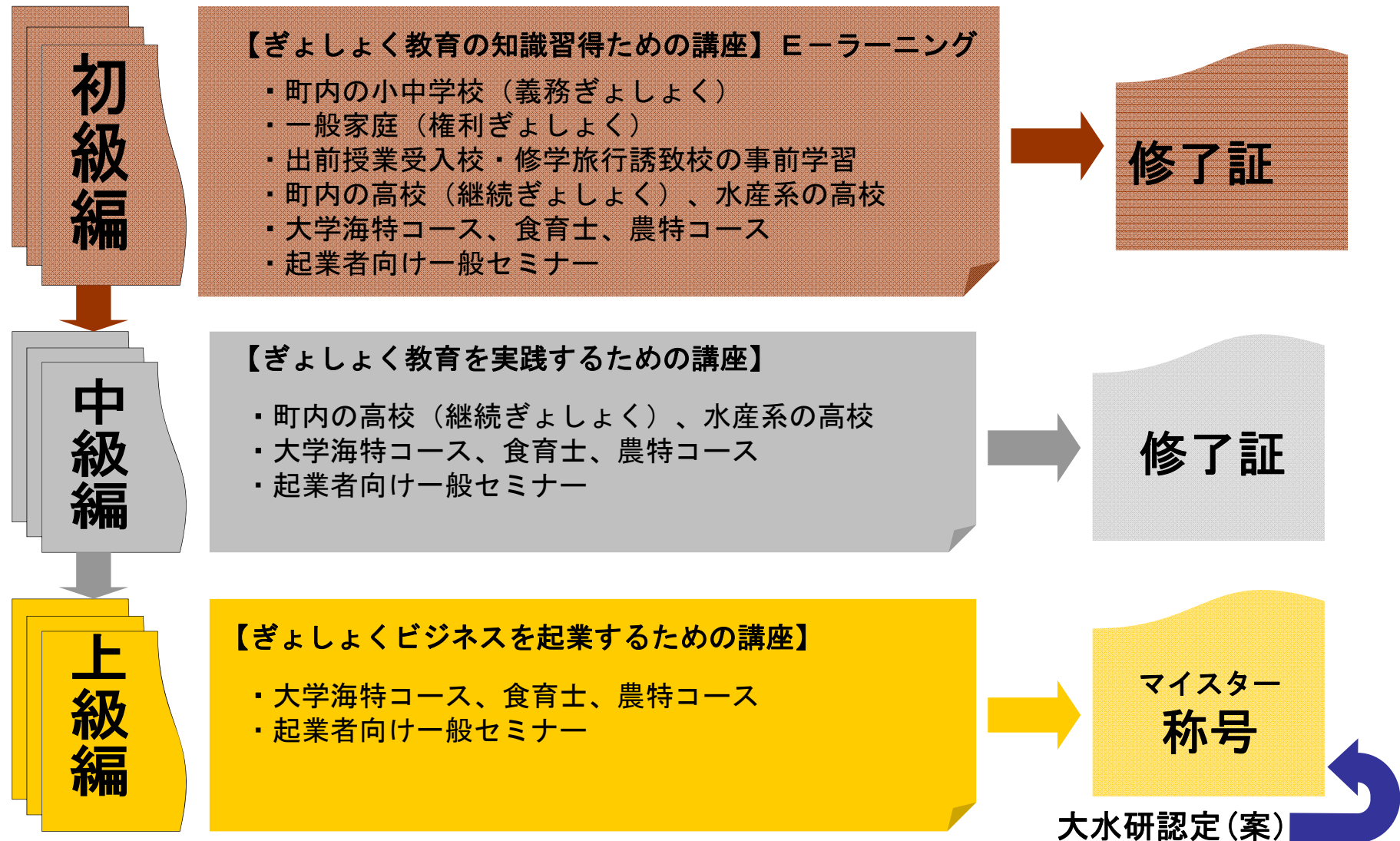


愛南ぎょしょくマイスター制度



(9) 愛南ぎょしょく教育マイスター制度(案)

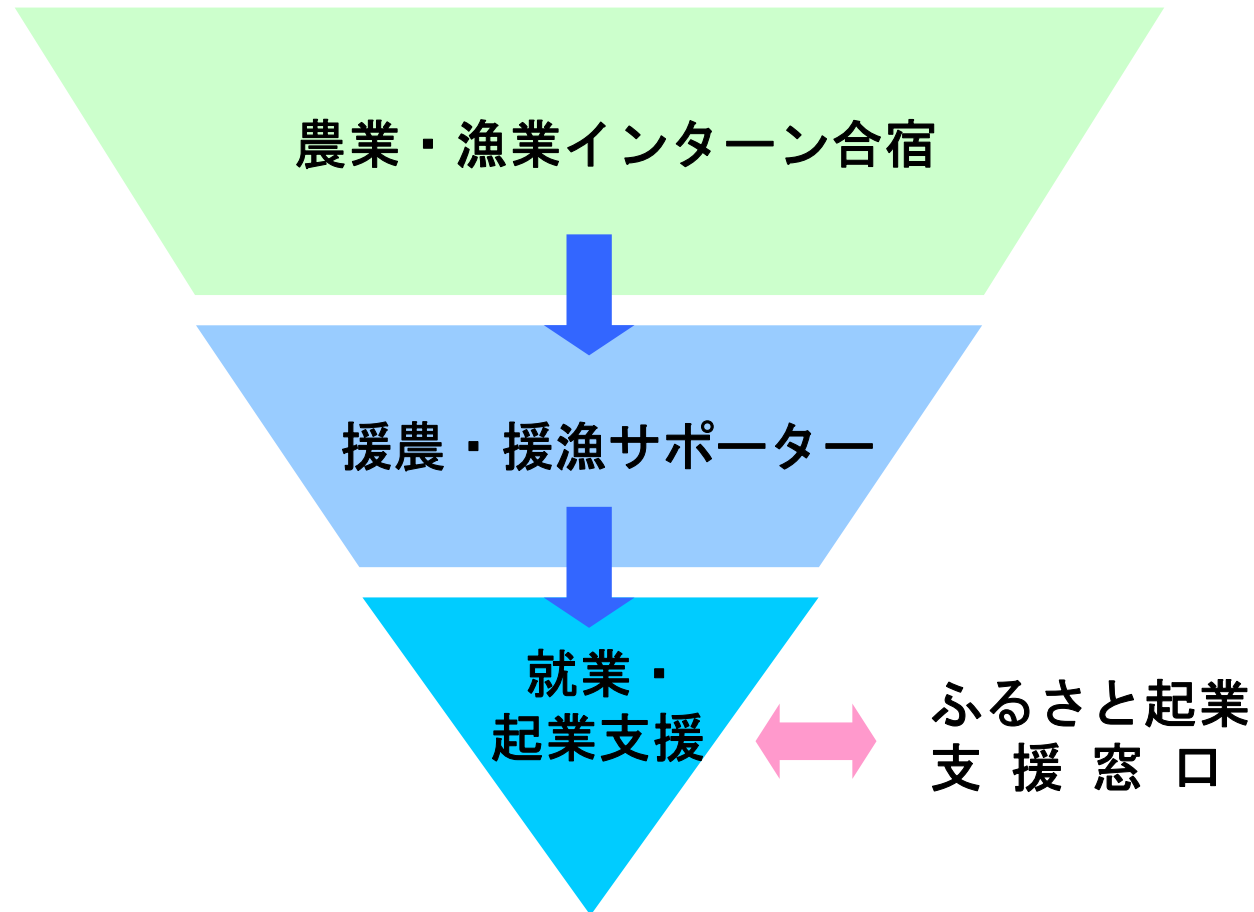
生産から加工・流通・販売・料理法など魚の魅力について総合的に理解するぎょしょく教育に加え、商品開発や販売などの実践編、ぎょしょく教育に体験観光を融合させたぎょしょく観光の商品開発などぎょしょくビジネスに関する起業家などを養成する制度。



(10) 農漁村の多面的機能を活かした人材育成

地域資源を活用した6次産業化や“ふるさと起業”を目指す意欲のある若者や学生等を受け入れ、インターンシップや援農・援漁サポーターの就業体験を通じて、第1次産業への理解と技能の習得を図る。

人材育成フロー



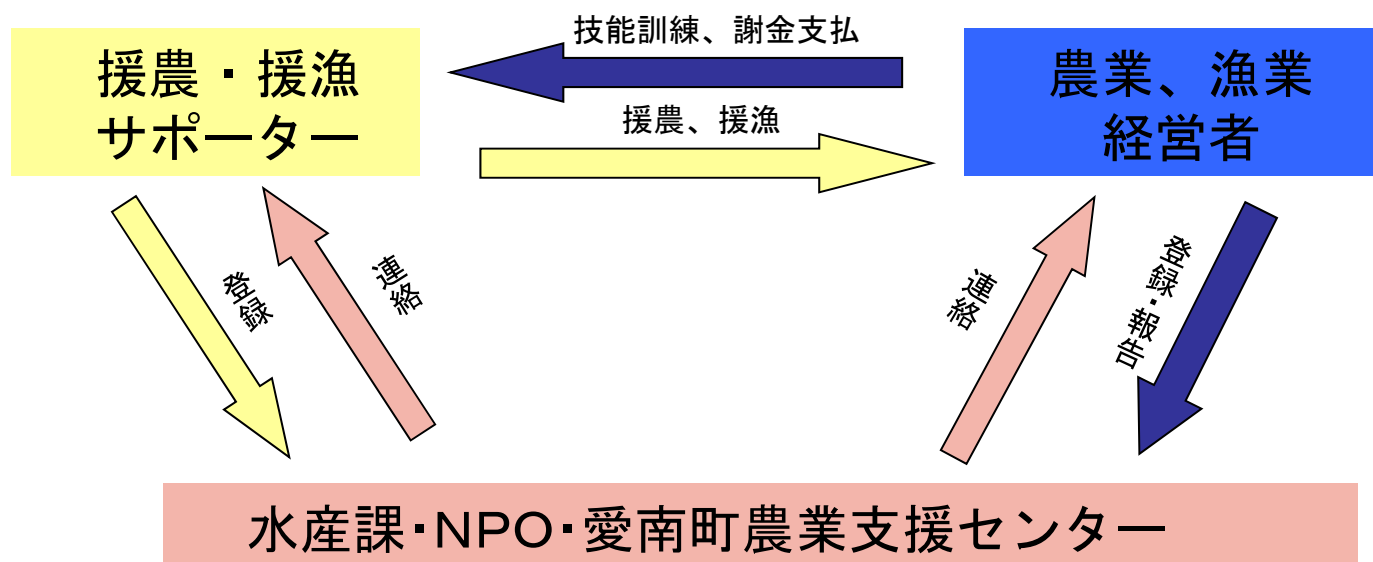
- ①農業・漁業インターン合宿-----大学生などの若者を対象にした短期滞在型就業体験
- ②援農・援漁サポーター-----技能や知識を身につけたい者を対象にした長期滞在型技術指導
- ③就業・起業支援-----就業予定者や起業家の研修や相談支援

①農業・漁業インターン合宿

短期滞在施設等を活用し、農業や漁業の理解促進と職能適性を検証するため、大学生などの就業体験を実施する。

②援農・援漁サポーター制度

長期滞在施設等を活用し、研修を通じて基礎的な技術や知識を習得することを目的に、研修生を受け入れ技術指導が可能な農業、漁業経営者と技能を身につけたい研修生をつなぐ有償ボランティア制度を創設する。

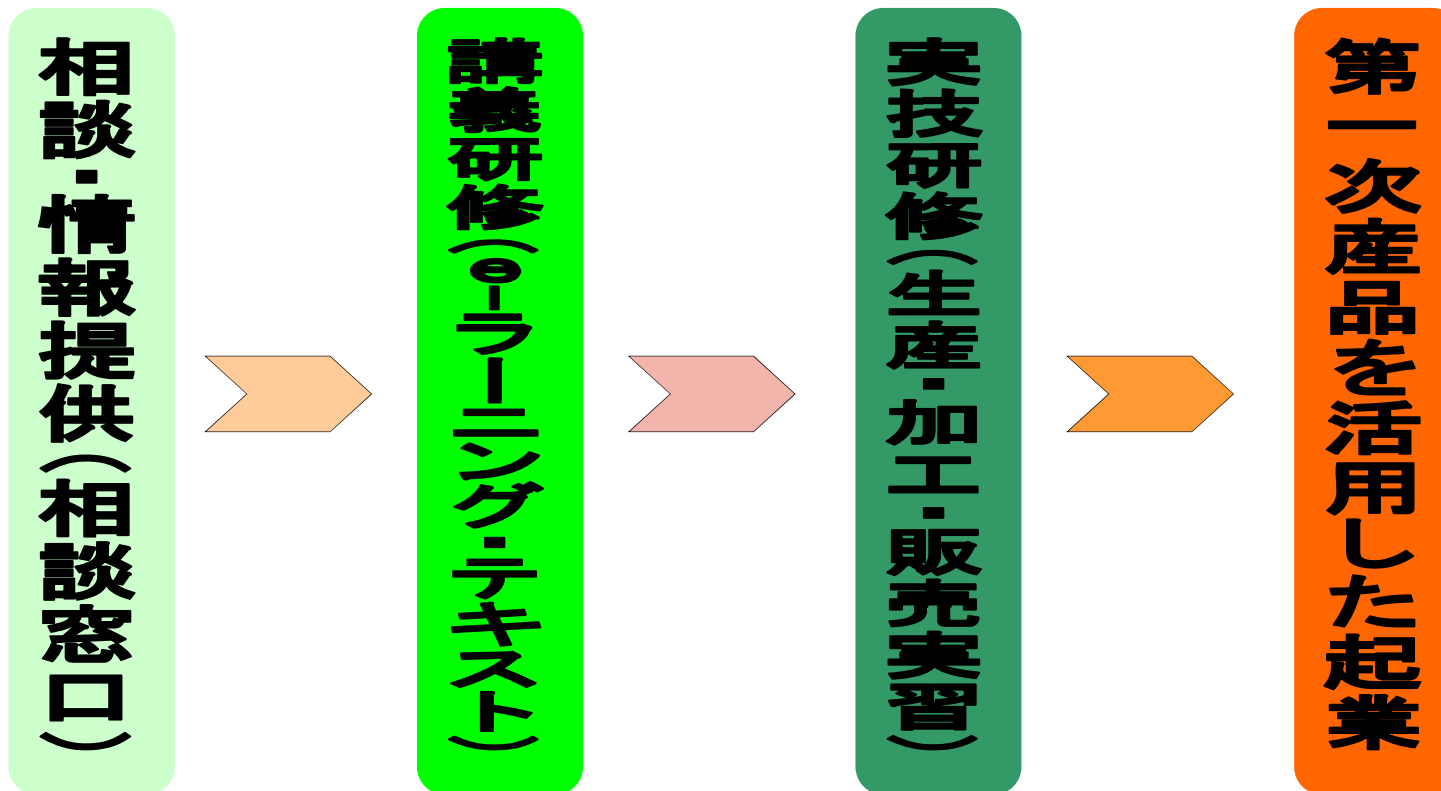


③就業・起業支援

町内の農・水産関連の就職予定者の事前研修の受入、起業のための専門講習や相談支援を実施する。

(11) ふるさと起業支援

第1次産品を活用した加工品の開発や、販路開拓など地方でふるさと起業(地域密着型ビジネス)に挑戦する若者等に対し、情報提供や相談・技術的支援などを行う。



(12)ぎょしょく体験観光

ぎょしょく教育をベースに観光船や磯釣り、ダイビング、民宿を組み合わせた体験メニューを企画開発し愛南型ブルーツーリズムを推進する。

ぎょしょく観光メニュー（1泊2日例）

○1日目

【磯釣り】

西日本有数の磯で釣り

【ぎょしょく教育】

釣ったさ魚の種類を知り、魚を捌く。
美味しさを知る。おいしく料理する。

【民宿】

漁村の民宿に泊まる。

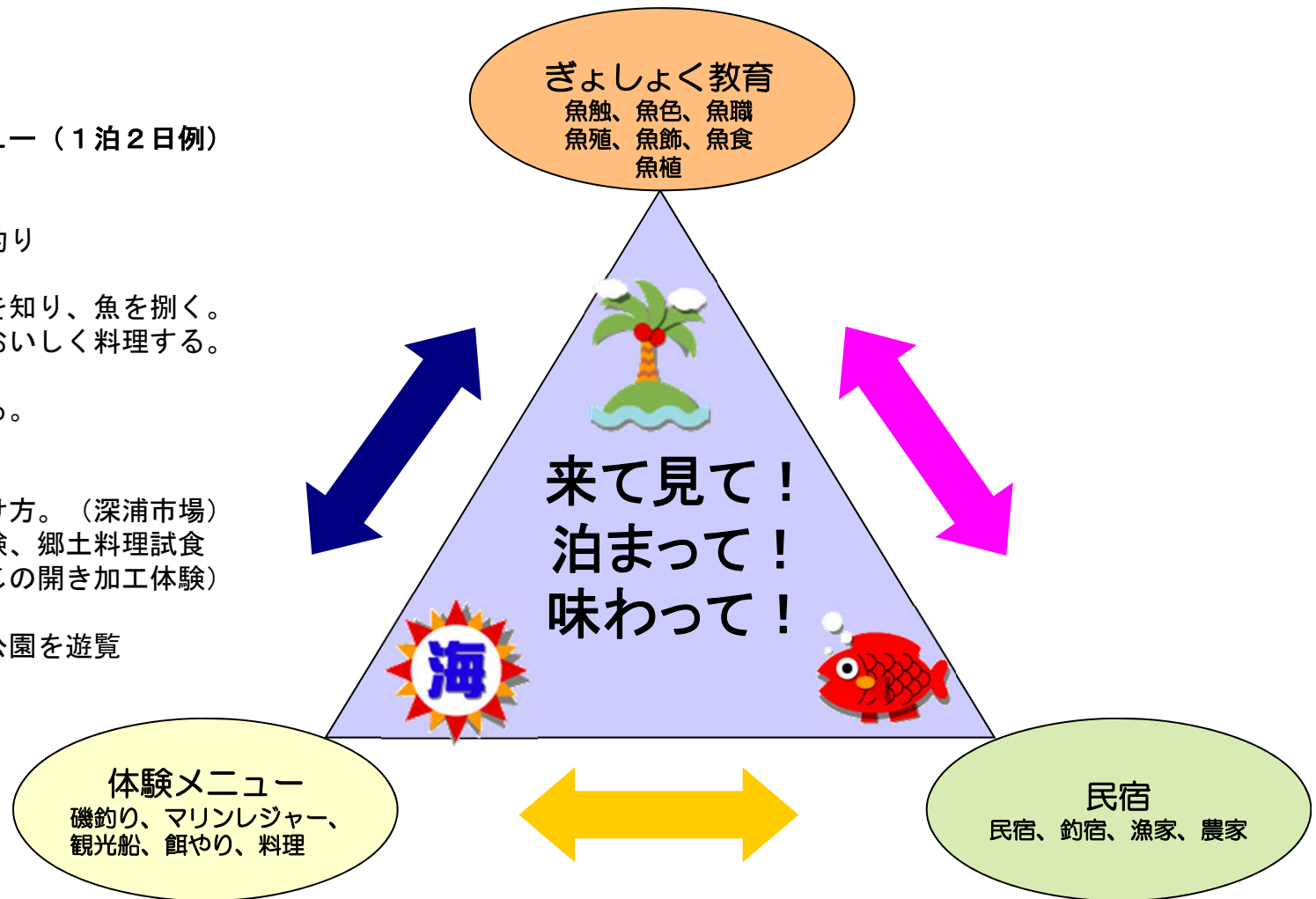
○2日目

【ぎょしょく教育】

おいしい魚の見分け方。（深浦市場）
養殖魚の餌やり体験、郷土料理試食
お土産づくり（あじの開き加工体験）

【海中公園】

海中展望船で海中公園を遊覧



(13)ぎょしょく留学・修学旅行の誘致

①ぎょしょく留学

町内外の小中学校の子ども体験事業を受け入れ、ぎょしょく教育を中心とした自然体験・水産業体験プログラムを行う。

②修学旅行誘致（愛南食の学舎）

ぎょしょく出前講座を実施した学校等を対象に食育（ぎょしょく教育）体験型修学旅行を誘致する。旅行生には修了証（愛南ぎょしょくジュニアマイスター）を授与する。



ぎょしょく教育

【魚蝕】魚に触る体験

【魚色】魚の特色（種類・栄養）を知る

【魚職】とる漁業を知る

【魚殖】育てる漁業を知る

【魚飾】魚の伝統的食文化を知る

【魚食】魚の味を知る

【魚植】魚をめぐる環境学習

体験観光メニュー

釣り体験

スノーケリング

スキューバーダイビング

シーカヤック

観光船（海中公園）

シーボーンアート

真珠アクセサリー加工

魚類養殖餌やり

郷土料理

(14) 漁村の生活文化体験

研修生などが積極的に地域の人々と交流しイベントや地域行事に参加することによって地方の役割・第1次産業の重要性について理解を深め、地域コミュニティの維持を図る。

2010
船越秋祭り

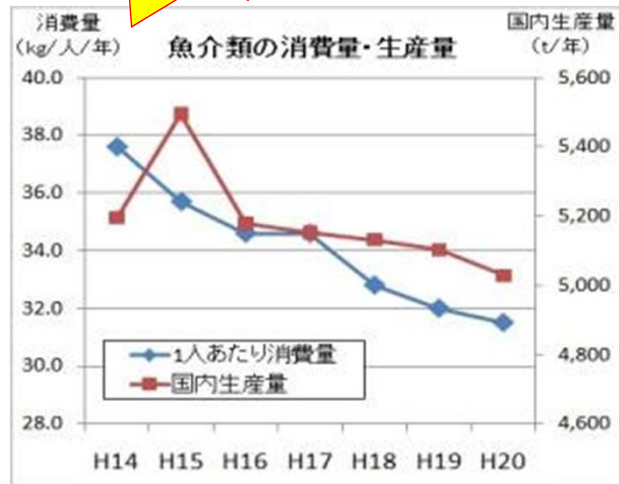
(15) 愛南町水産業の現状



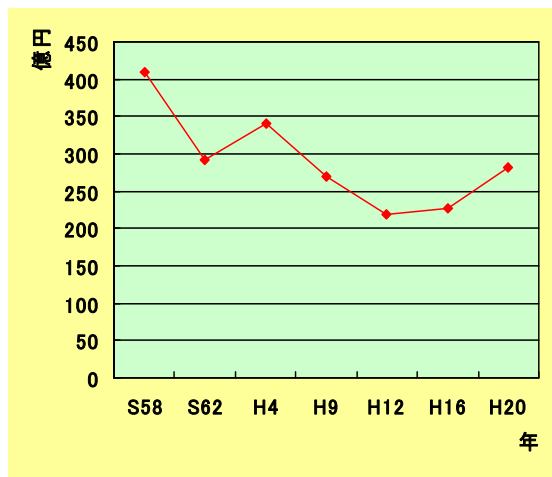
- ・ 漁獲量や漁獲金額の減少
- ・ 燃油や餌料の価格高騰
- ・ 魚価の低迷
- ・ 漁業者の高齢化と後継者不足
- ・ 漁場環境の変化



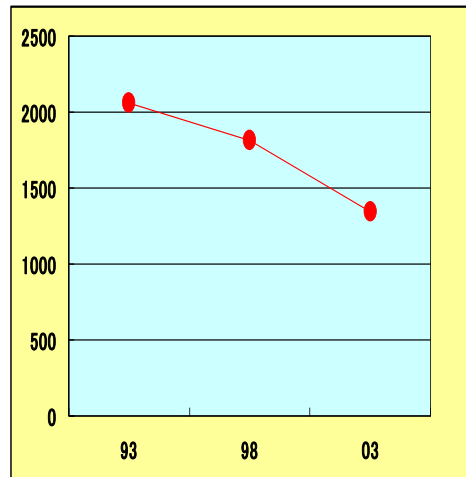
非常に厳しい



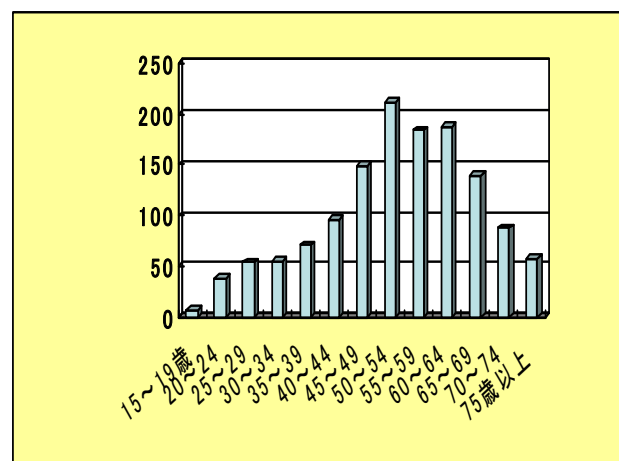
漁業生産額の推移



愛南町漁業就業者数



愛南年齢別漁業者就労者数



(16) 愛南町水産業の課題と打開



ICT



1. 生産性の向上
2. 販売力の強化
3. 後継者育成



1. 生産性の向上

- ・ 漁場環境、魚の状態をデータ化し共有
- ・ 個々の漁業の現状を分析、改善
- ・ 品質の向上

2. 販売力の強化

- ・ 流通・消費者ニーズの把握
- ・ インターネット販売
- ・ トレーサビリティシステム等、消費者へのアピール

3. 後継者育成

- ・ 大学等のエビデンスに基づいた漁業者教育
- ・ 若手人材への水産業アピール
- ・ “ぎょしょく”普及者等の育成

(17)ICT活用による次世代型水産業の確立と普及促進

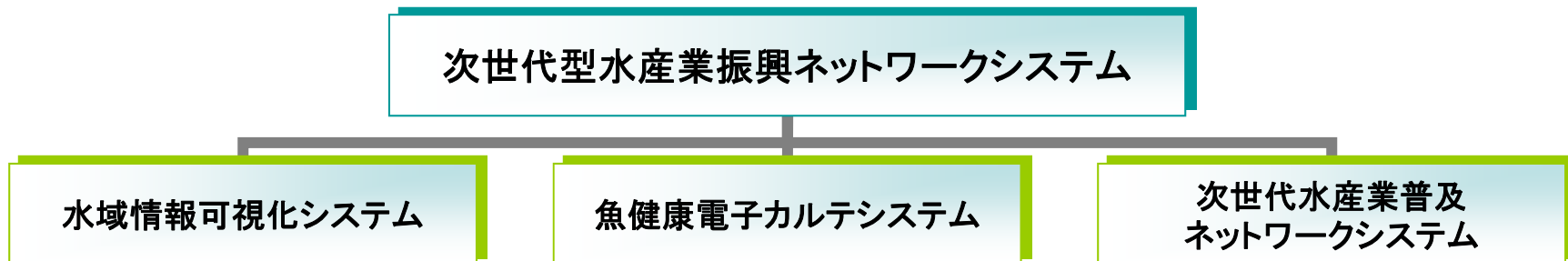
1) 事業目的

愛南町が有する地域資源である水産業を核とした経済成長戦略に基づき、ICTによる戦略的な水産業の実現と水産業の未来を担う地域ICT人材の育成による次世代型水産業の普及促進を行い、新規雇用を創出し、愛南町全体の活性化を図ることを目的とする。

次世代型水産業 = ICTを高度に利用した水産業

2) 事業内容

愛南町の水産業の活性化のため、「次世代型水産業振興ネットワークシステム」を構築、導入し次世代水産業の確立と普及促進を目指す。



(18) 水域情報可視化システム

漁業者等がパソコン、携帯電話からこのシステムサイトにアクセスすることで、愛南町の各水域における水温、溶存酸素、赤潮発生情報等の環境情報をいつでも、どこからでも閲覧することができる。



〈現状〉

- ・日々の測定データをFAXで送信
- ・一部データは紙ベース
- ・測定検査機関毎で管理
- ・赤潮等の緊急通報の不可

〈システム導入〉

- ・多くの人に周知可能(共有化)
- ・検査データ管理の一元化
- ・データの解析が容易
- ・赤潮発生時に緊急通報も可能

※ 生産性の向上・販売力の強化

(19) 魚健康電子カルテシステム

魚病診断の現場に電子カルテを導入し、魚病診断情報を有効活用できるようにシステム化する。



全国一の診断数

〈現状〉

- ・検査結果はほとんどFAXで送信
- ・データ管理は一部の情報
- ・データの解析が困難



〈システム導入〉

- ・検査データ管理、解析が容易
- ・水域情報と合わせた管理が可能
- ・情報の共有化が可能
- ・診断業務の迅速化

※ 生産性の向上

(20) 次世代水産業振興ネットワークシステム

- ① 次世代水産人材の育成
- ② “ぎょしょく”普及の情報発信

① 次世代水産人材の育成

愛媛大学農学部南予水産研究センター等を利用して、
次世代水産業を担う人材育成

- ・ 愛南町内の漁業者を対象とした人材育成
- ・ 都市部の若手人材への水産業のアピール、人材育成



② “ぎょしょく”推進のための情報発信

愛南町が推進している“ぎょしょく”教育の推進

- ・ “ぎょしょく”推進者の人材育成
- ・ “ぎょしょく”を推進の情報発信



※ 後継者育成・販売力の強化

(21) 次世代水産業普及ネットワークシステム

